



地域・駅・新幹線ニュースレター

はっしん！新青森

青森県立青森西高等学校
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School

青森大学
AOMORI UNIVERSITY

2022年11月20日(日)
第37号 【FREE】

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR東日本新青森駅

青森大学社会連携センター



青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく③7



「新青森駅発」のもてなし学が 「三内霊園の歴史散歩」研修会

青森県立青森西高校の「青西おもてなし隊」を対象にした研修会「新青森駅発のおもてなしー三内霊園の歴史散歩」が11月4日、同校で開催されました。住民団体「三内を美しく元気にする会」(中條資則会長)の会員が講師を務め、約30人の参加者が、同校や新青森駅から近い三内霊園に眠る著名人などについて学びました。

研修会は同会の申し出で実現し、青森西高校と青森大学・柳引研究室が主催、青森大学社会連携センターが共催しました。JR東日本からも澤村郁子・新青森駅長や盛岡支社の社員が参加しました。

開会に先立ち、澤村駅長が副隊長の佐々木千束さんに感謝状を手渡しました。また、7月に新青森駅を訪れ、隊員らと交流した北海道長万部高校の生徒4人のメッセージが読み上げられました。

生徒たちは、講師を務めた鎌田英人さんの解説に聴き入りながら、三内霊園に眠る世界的版画家・棟方志功や「ブルースの女王」と呼ばれた淡谷のり子、ピュリッツァー賞を受賞した写真家・澤田教一など、青森市ゆかりの人々の足跡に理解を深めました。

また、1954(昭和29)年に発生した国内最大の海難事故、青函連絡船・洞爺丸の沈没で亡くなった人を



新城中学校

生徒製作の「金魚ねぶた」県内外に

2小学校と連携、新青森駅で配布

新青森駅一帯が学区となっている青森市立新城中学校は、同駅を拠点におもてなし活動を展開しています。今年は昨年に続き、紙製の「金魚ねぶた」を製作して県内外の人々に届けました。8月5日には2年ぶりに、観光客や帰省客に「金魚ねぶた」を配布することができました(画像は新城中学校提供)。

同校は新青森駅から南西へ1km余りの丘の上に位置します。毎年、「金魚ねぶた」を製作し、多くの人々に届けてきました。2021年には初めて、東京都と大阪府、

福岡県にある青森県のアンテナショップ経由で各地に送ったほか、新青森駅とつながりのある横浜市の小机駅にもプレゼントしました。

今年はこれらの施設・地域に金魚ねぶたを届けたほか、「小中連携」の企画として初めて、学区内にある新城小学校、新城中央小学校の児童とともに、新青森駅で合同配布しました。また、「金魚ねぶたで新城を元気に！」のスローガンを掲げ、地元の交番や消防署、郵便局などにも配布しました。



新城中学校は今後、スポーツで地域を元気にすることとを研究している東海大学スポーツレジャーマネージメント学科の学生らとリモートで交流を深めるそうです。





「鉄道のまち」の歴史を展示 八甲田丸で「JRあおもり駅まつり」

1872（明治5）年10月14日、日本初の鉄道が新橋－横浜（現・桜木町）間に開業したことにちなむ「鉄道の日」のイベントとして、JR 東日本盛岡支社は10月23日、青森駅近くの「青函連絡船メモリアルシッブ



また、往年の駅一帯や青函連絡船の光景を収めた写真パネルも多数、展示されました。

特に人気を集めていたのは、2021年3月まで使われていた旧青森駅舎を彩っていた「あおもり駅」というネオンサインの「駅」の字です。「中身をLEDに入れ替えました。ほかの字も大切に保管してあります」と青森駅の山口智・副駅長。多くの人が、この「駅」の字と一緒に記念写真を撮影していました。

三内丸山遺跡

作業員のおばちゃんたちの声

津軽弁：A
あみやあふりやあ、てもあすもひやっけしたんげへづねすて、やめでまるともすねへ。すたばって、めごい土偶っこの土器っこのでっぺ出はれば、や、っていづも思らね。



R：A
雨が降ると手も足も冷たくてすごく辛く感じて、（この仕事を）やめてしまったりもします。でも、可愛らしい土偶や土器がたくさん出てくると発掘して、思います。

発掘作業の苦楽 音声付き津軽弁で紹介

特別史跡・三内丸山遺跡を紹介するホームページには、催しの案内や調査の成果、さらには世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」などに関する多様な情報が掲載されています。この中で一風変わったコンテンツが、発掘作業を担う人々の「肉声」です。

この情報は「さんまの仕事場」と名付けられたページの、「作業員のおばちゃんたちの声」コーナーに掲載されています。ほとんどの方は地元出身・在住で、独特の言葉とリズムが特徴的な方言・津軽弁を話します。コーナーでは、その津軽弁の「つづやき」と共通語の“対訳”を紹介、さらには音声データも聞くこと

ができます。2次元コードから、ぜひ、お試しください。
★津軽弁「あみやあふりやあ、てもあすもひやっけしたんげへづねすて、やめでまるともすねへ。すたばって、めごい土偶っこの土器っこのでっぺ出はれば、発掘すていがったじや、っていづも思らね」

☆共通語「雨が降ると手も足も冷たくてすごく辛く感じて、（この仕事を）やめてしまおうかな、って思ったりもします。でも、可愛らしい土偶や土器がたくさん出てくると発掘してよかったなあ、いつも思います」



「あおもり旅ものがたり」 青森県立郷土館巡回展、23日から

三度笠や道中合羽、東北本線開業時の沿線風景を描いた「日本鉄道陸奥地方図譜」などを展示します。

第Ⅱ部「旅と観光」では、大正から昭和にかけて活躍した鳥瞰図絵師吉田初三郎作の青森市や十和田湖の鳥瞰図、県内の観光名所の土産置物、駅弁やお茶を入れる土瓶などを紹介します。

他にも、青森県立美術館と青森県立郷土館が収蔵する、十和田湖や奥入瀬溪流を題材とした郷土の作家の美術作品も紹介します。

青森県立美術館

「鉄道開業150年」にちなみ、青森県立郷土館（休館中）は巡回展「あおもり旅ものがたり」を県内各地で開催しています。11月23日（水・祝日）から1月29日（日）までは青森県立美術館を会場に、「旅」や「鉄道」にちなんだ収蔵品を展示します。

青森は本州と北海道を結ぶ地として重要な地位を占めてきました。巡回展は「旅の目的地」であり「交流の場」でもある青森の魅力に、多面的に迫ります。

第Ⅰ部「旅と交通」では、近世の旅に不可欠だった



なお、同会期で青森県立美術館ではコレクション展 2022-3 も開催します。
※青森県立美術館は11月22日（火）まで休館中です。



見学時間 9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）
休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料 一般 410円（330円）／高校・大学生等 200円（160円）／中学生以下 無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ
〒038-0031 青森市三内字丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>



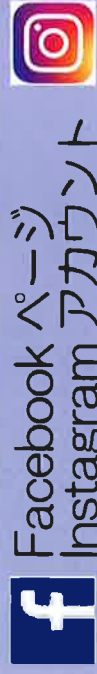
青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）★11月22日まで休館
休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）
※企画展開催時、展示替等により変更する場合があります。
観覧料 一般 510円（410円）／高校・大学生 300円（240円）／小学生・中学生 100円（80円）
※（ ）内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ
〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約20分・300円、タクシー（南口）約10分・1,000円前後、徒歩約30分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分・1,300円前後、徒歩約40分



Facebook ページ
Instagram アカウント

ネット情報

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部
櫛引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp

